



岐阜県の大垣市上石津町と関ヶ原町にまたがる山林で建設計画が進む風力発電施設の予定地周辺で、希少種のクマタカの生息が確認されたことがわかった。国の天然記念物のイヌワシの生息への影響も懸念される。同県環境影響評価審査会の委員からは「絶滅が危惧される生物が残る地域を開発するなどあり得ない」などとして、計画の中止や見直しを求める意見が相次いでいる。

建設計画をめぐっては、岐阜県警が、中部電力子会社で事業者の「シー・テック」(名古屋市)に個人情報漏洩していたことが発覚。年齢や最終学歴などを明かされた大垣市に住む近藤ゆり子さんが情報公開を請求し、県が環境アセス文書を開示した。

この文書などによると、同社は2012年に計画を一部変更した際、予定地の周囲2kmなどで2年間にわたり実施してきた環境調査を「中間報告書」として県に提出した。この中にクマタカの出現状況、イヌワシの確認位置情報などが記載されていた。

県は当時、25人の審査会委員に照会した。その結果、意見述べた6人のうち3人がイヌワシやクマタカへの影響を懸念した。